

## 公益財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づく質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

### 【平成25年度健診（検診）実績概要報告】

平成25年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は50万人近くになり、その内で主なものは、健康増進事業として行われています「がん検診」が327,161人（胃がん：84,471人、大腸がん：73,841人、肺がん：50,794人、子宮がん：58,594人、乳がん：59,461人）で最も多く、次いで健康診査129,614人（労働衛生における一般健診82,550人含む）、特殊健診9,555人でした。

特定健診は職域（企業等）46,134人、地域（住民）39,973人の86,107人で、特定保健指導は職域で積極的支援（生活習慣改善の必要性が高い方）196人（評価率93.9%）、動機付け支援（対象者自身の努力による行動変容が促される方）213人（評価率96.8%）、地域で積極的支援91人（評価率58.2%）、動機付け支援409人（評価率79.5%）の計909人を実施しました。支援開始6ヶ月後の腹囲・体重の変化の平均は、職域の積極的支援で-1.5cm・-1.6kg、職域の動機付け支援で-1.1cm・-1.2kg、地域の積極的支援で-1.8cm・-2.4kg、地域の動機付け支援で-0.4cm・-1.1kgで、特定保健指導により、概ね腹囲・体重の改善がみられました。

当事業団は、平成25年4月に福岡県認定の公益財団法人としてスタートしましたが、福岡県のみならず、西日本地域において、より広域的に公益目的事業を展開するために、平成26年4月より内閣府認定の公益財団法人に移行いたしました。学術研究センターの活動をさらに発展させ、地域住民の皆様の健康増進と福祉の向上に取り組んできたいと思っております。皆様のご支援とご指導をよろしく申し上げます。

当事業団の健康診断及びそのデータを皆様の健康管理に役立てていただき、疾病予防、疾病の早期発見・早期治療の一助になれば幸いです。

平成27年11月

公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団  
理事長 瓦林 達比古

平成25年度 がん検診実施状況総括(日本対がん協会全国支部合計と事業団実績)

		受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率
		(A)	(B)	B/A×100	(C)	C/B×100	(D)	D/A×100
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	84,471	5,303	6.3	4,035	76.1	100	0.12
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,348,924	178,156	7.6	143,877	80.8	3,178	0.14
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	58,594	702	1.2	562	80.1	25	0.04
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,322,593	19,044	1.4	15,543	81.6	208	0.02
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	59,461	4,318	7.3	3,872	89.7	175	0.29
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,266,151	70,163	5.5	62,047	88.4	2,902	0.23
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	73,841	4,253	5.8	2,782	65.4	114	0.15
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,421,988	152,060	6.3	104,785	68.9	4,011	0.17
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	50,794	1,813	3.6	1,584	87.4	39	0.08
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	3,018,583	65,167	2.2	50,246	77.1	1,534	0.05

1. 胃がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)
地域	51,250	3,451	6.7	3,015	87.4	90	0.18	66	73.3	2.61
職域	31,362	1,738	5.5	963	55.4	10	0.03	7	70.0	0.58
ドック	1,859	114	6.1	57	50.0	0	0.00	0	0.0	0.00
総計	84,471	5,303	6.3	4,035	76.1	100	0.12	73	73.0	1.89

平成25年度の胃がん検診受診者数は地域で51,250人、職域で31,362人、人間ドックで1,859人、計84,471人であった。要精検率は6.3%、精検受診率は76.1%、発見がん数は100人でがん発見率は0.12%、そのうち早期がんは73人で、早期がん率73.0%、陽性反応適中度は1.89%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標では、許容値は、要精検率11%以下、精検受診率70%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期I A1期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)
地域	45,181	385	0.9	349	90.6	23	0.05	15	65.2	5.97
職域	12,663	289	2.3	195	67.5	2	0.02	2	100.0	0.69
ドック	750	28	3.7	18	64.3	0	0.00	0	0.0	0.00
計	58,594	702	1.2	562	80.1	25	0.04	19	76.0	3.56

※：発見がんの内、上皮内がん13人を除いた場合、全体のがん発見数12人、発見率0.02%、早期がん数6人、早期がん率50.0%、陽性反応適中度1.71%

平成25年度の子宮頸がん検診受診者数は地域で45,181人、職域で12,663人、ドックで750人、計58,594人であった。全体の要精検率は1.2%、精検受診率は80.1%、発見がん数は25人でがん発見率は0.04%、そのうち早期がんは19人で、早期がん率76.0%、陽性反応適中度は3.56%であった。また、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値(要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応適中度4.0%以上)は、全て満たしていた。

3. 乳がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期I期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)
地域	45,917	3,261	7.1	3,071	94.2	158	0.34	105	66.5	4.85
職域	12,712	966	7.6	729	75.5	16	0.13	14	87.5	1.66
ドック	832	91	10.9	72	79.1	1	0.12	1	100.0	1.10
計	59,461	4,318	7.3	3,872	89.7	175	0.29	120	68.6	4.05

平成25年度の乳がん検診受診者数は地域で45,917人、職域で12,712人、人間ドックで832人、計59,461人であった。要精検率は7.3%、精検受診率は89.7%、発見がん数は175人でがん発見率は0.29%、そのうち早期がんは120人で、早期がん率68.6%、陽性反応適中度は4.1%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標の許容値は、要精検率11%以下、精検受診率80%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

#### 4. 大腸がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)
地域	41,812	2,545	6.1	2,030	79.8	93	0.22	53	57.0	3.65
職域	29,480	1,559	5.3	682	43.7	21	0.07	15	71.4	1.35
ドック	2,549	149	5.8	70	47.0	0	0.00	0	0.0	0.00
計	73,841	4,253	5.8	2,782	65.4	114	0.15	68	59.6	2.68

平成25年度の大腸がん検診受診者数は地域が41,812人、職域が29,480人、ドックが2,549人、計73,841人であった。要精検率は5.8%、精検受診率は65.4%、発見がん数は114例、がん発見率は0.15%、そのうち早期がんは68例で早期がん率は59.6%、陽性反応適中度は2.68%であった。地域においては、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標(許容値：精検受診率70%以上、がん発見率0.13%以上、陽性反応適中度1.9%以上)を満たしていた。

#### 5. 肺がん検診の実施状況

要精検を胸部読影判定Eとした場合(喀痰検査のみ除く)

※早期がんを病理病期IA期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)
地域	45,484	784	1.7	719	91.7	21	0.05	9	42.9	2.68
職域	2,562	8	0.3	4	50.0	0	0.00	0	0.0	0.00
ドック	2,748	3	0.1	2	66.7	0	0.00	0	0.0	0.00
計	50,794	795	1.6	725	91.2	21	0.04	9	42.9	2.64

要精検を胸部読影判定D・Eとした場合(喀痰検査のみ除く)

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)
地域	45,484	1,691	3.7	1,514	89.5	38	0.08	16	42.1	2.25
職域	2,562	46	1.8	30	65.2	1	0.04	1	100.0	2.17
ドック	2,748	76	2.8	40	52.6	0	0.00	0	0.0	0.00
計	50,794	1,813	3.6	1,584	87.4	39	0.08	17	43.6	2.15

読影判定別がん発見内訳

	受診者数 (人)	読影E判定					読影D判定			陽性反応適中度(%)	
		該当者 (人)	がん(人)			該当者 (人)	がん(人)		Eのみ	D+E	
			早期	進行期	不明		早期	進行期			
地域	45,484	784	9	10	2	907	7	10	2.68	2.25	
職域	2,562	8	0	0	0	38	1	0	0.00	2.17	
ドック	2,748	3	0	0	0	73	0	0	0.00	0.00	
計	50,794	795	9	10	2	1,018	8	10	2.64	2.15	

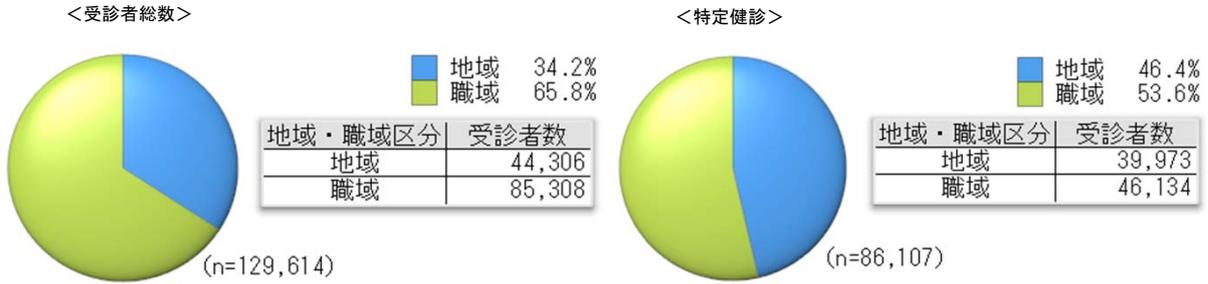
平成25年度の肺がん検診受診者数は地域で45,484人、職域で2,562人、人間ドックで2,748人、計50,794人であった。胸部読影判定E判定を要精検とした場合、要精検率は1.6%、精検受診率は91.2%、発見がん数は21人でがん発見率は0.04%、そのうち早期がんは9人で、早期がん率42.9%、陽性反応適中度は2.64%であった。これは、厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標(E判定のみ)では、要精検率許容値3.0%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.03%以上、陽性反応適中度許容値1.3%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

一方、胸部読影判定D・E判定を要精検とした場合、要精検率は3.6%、精検受診率は87.4%、発見がん数は39人でがん発見率は0.08%、そのうち早期がんは17人で、早期がん率43.6%、陽性反応適中度は2.15%であった。読影判定別の要精検者は、E判定が795人であり、早期9例、進行期10例、病期不明2例の計21例、D判定は1,018人で、早期8例、進行期10例の計18例のがんが発見された。

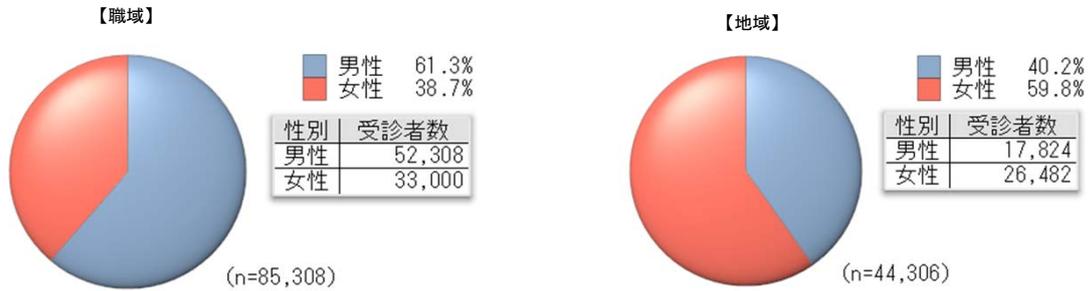
## 6. 健診・特定保健指導

受診者および有所見者状況

### ①平成25年度 健診受診者状況



平成25年度の健診受診者総数は、地域44,306人、職域85,308人の計129,614人であった。そのうち、特定健診は地域39,973人、職域46,134人の計86,107人であった。



	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	9,022	14,265	12,583	10,514	5,521	403
女性	7,147	8,675	8,257	6,325	2,356	240

	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
男性	65	488	1,852	1,942	7,656	5,496	325
女性	210	1,817	2,366	3,084	12,023	6,649	333

性別・年齢別にみると、職域は男性が約6割を占め、30歳代が最も多く、40歳代、50歳代、20歳代の順であった。地域は女性が約6割を占め、年齢は60歳代が最も多く、70歳代、50歳代、40歳代の順であった。

### ②特定保健指導状況

<腹囲・体重の変化の平均(支援開始6ヶ月後)>

【職域】

積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-1.5cm	-1.6kg	-1.1cm	-1.2kg

【地域】

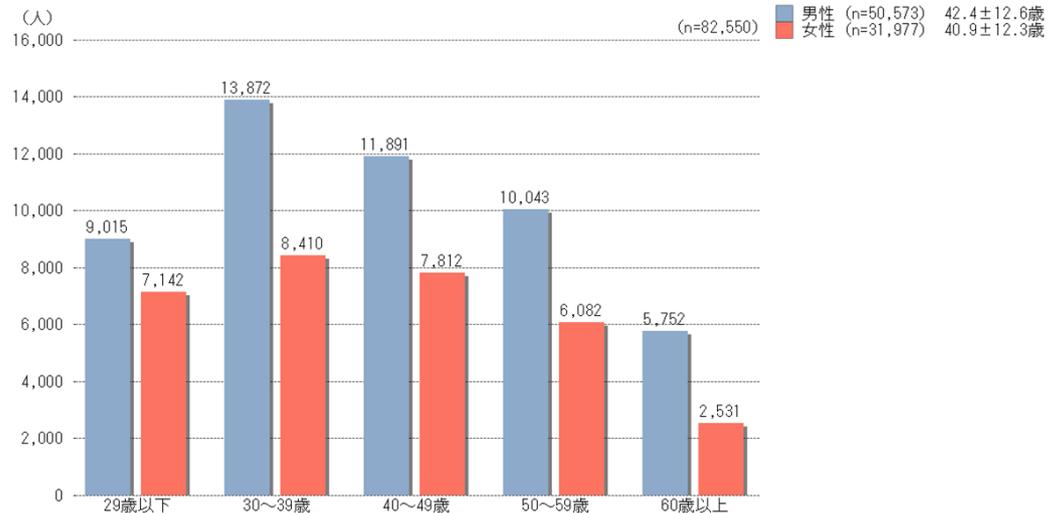
積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-1.8cm	-2.4kg	-0.4cm	-1.1kg

## 7. 労働衛生

### (1) 一般健康診断実施状況

性別でみると、男性50,573人61.3%、女性31,977人38.7%で男性の受診者が約60%を占めていた。また、年齢階級別にみると、どの年代においても女性の受診者数が多く、平均年齢は男性42.4歳、女性40.9歳であった。30～39歳が最も多く、次いで40～49歳であった。

#### <年齢階級・性別受診者数>



### (2) 特殊健康診断実施報告

特殊健康診断の項目別に判定結果をみると、有機溶剤で管理B15人0.3%であり、石綿で管理B1人0.3%、要二次検査7人1.9%にみられた。この7人のうち、4人は胸部CTまで実施しており、管理Aとなった方が1人、管理Bとなった方が3人であった

#### <特殊健康診断 項目別判定結果>

項目	区分	受診者数	判定結果											
			管理A		管理B		管理C		管理R		管理T		要二次検査	
			人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
有機溶剤		4,976	4,397 (88.4)	15 (0.3)						564 (11.3)				
特定化学物質		3,089	2,970 (96.1)							119 (3.9)				
電離放射線		867	855 (98.6)							12 (1.4)				
鉛		259	250 (96.5)							9 (3.5)				
石綿		364	349 (95.9)	1 (0.3)						7 (1.9)		7 (1.9)		

### (3) 作業環境測定

平成25年度の環境科学センターの作業環境測定の実績は、鉱物性粉じんは43事業場で実施し、このうち第一管理区分が176作業場85%で特定化学物質等は69事業場で実施し、このうち第一管理区分が190作業場94%であった。金属類の鉛は3事業場で実施し、全ての作業場が第一管理区分であった。また、鉛以外は15事業場で実施し、このうち第一管理区分が37作業場97%であった。有機溶剤は93事業場で実施し、このうち第一管理区分が345作業場90%であった。騒音は7事業場で実施し、このうち第一管理区分が45作業場44%であった。

#### <環境測定実施状況>

測定対象作業場	測定実施事業所数	延単位作業場数	延べ単位作業場の管理区分		
			第一管理区分	第二管理区分	第三管理区分
鉱物性粉じん	43	206	176	13	17
特定化学物質等	69	203	190	10	3
金属類	鉛	3	7	0	0
	鉛以外	15	38	0	1
有機溶剤	93	385	345	25	15
騒音	7	102	45	46	11